

## PROGRAM

## チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op. 23

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Piano Concerto No. 1 in B flat minor, op. 23

第1楽章 アレグロ・ノン・トロツポ・エ・モルト・マエストーソーアレグロ・コン・スピリット  
Allegro non troppo e molto maestoso-Allegro con spirito第2楽章 アンダンティーノ・センプリチェープレスティッシモ - テンポ・プリモ  
Andantino semplice-Prestissimo-Tempo primo第3楽章 アレグロ・コン・フォーコ  
Allegro con fuoco

— 休憩 — Intermission

## ショスタコーヴィチ:交響曲 第15番 イ長調 op. 141

Dmitri Shostakovich: Symphony No. 15 in A major, op. 141

第1楽章 アレグレット Allegretto

第2楽章 アダージョ Adagio

第3楽章 アレグレット Allegretto

第4楽章 アダージョ Adagio

指揮:シュテファン・ザンデルリンク Stefan Sanderling, Conductor

ピアノ:アレクサンダー・コ布林 Alexander Kobrin, Piano

管弦楽:兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

2011 10/14(金)・15(土)・16(日) 3:00PM開演  
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

🎻 平成23年度(第66回)文化庁芸術祭参加公演

## 3分ですぐわかる 今回の聴きどころ

## ロシアと旧ソ連を代表する2人の作曲家が、壮大な音楽世界へ誘う

ドイツやイタリア、フランスなどの諸国と並び、19世紀から今世紀にかけてのロシア～旧ソヴィエト連邦からも、多くの作曲家と名曲が生まれている。言うまでもなくチャイコフスキーは19世紀を、そしてショスタコーヴィチは20世紀を代表する作曲家の一人だ。その音楽は対称的であり、トルストイの長編小説を思わせるような情緒とドラマがあるチャイコフスキーに対して、厳しい政府の管理体制下で生活したショスタコーヴィチは社会へ問題提起を行うような意志の強さがある。2つの音楽を聴くことで、日本と関係が深い大国の文化に接し、もう一度歴史を紐解いてみるのも一興。クラシック音楽は、時間を越えた各国からの音楽大使なのだ。

## 音楽に深く共感した音楽家たちが、PACオケの情熱を引き出す

昨年の秋「名曲コンサート」へ登場して、フレッシュなショパンのピアノ協奏曲を聴かせてくれたアレクサンダー・コ布林。1980年生まれの彼は多くのコンクールやコンサートでの経験を蓄積し、若さと勢いだけではない個性を感じさせるピアニストとして注目されている。モスクワに生まれ、ロシア音楽のエッセンスを熟知する彼だからこそ表現できる、雄弁なチャイコフスキーに期待しよう。指揮者のシュテファン・ザンデルリンクは、父である大指揮者のクルト・ザンデルリンクと兄のトマス・ザンデルリンクに負けず、欧米各地のオーケストラやオペラハウスに客演して実績を積み上げているマエストロ。ショスタコーヴィチは、父クルトも得意とした作品だけに期待大だ。

オヤマダアツシ(音楽ライター)